

「岡山県九条の会」発起人に聞く③

反戦のシンボル、タイメン鉄道の世界遺産に

タイ国教育法人クワイ河平和基金主宰 永瀬 隆さん

九条の会へ参加したのは、石井淳平さんが要請してくださいましたからです。石井さんは私の話を聞いてくださったことがあり、同じ志を持っていることがわかっていたので喜んで参加させてもらいました。

まず、今日私が感じたことはね、今度のトリノのオリンピック、あれがまさにナシヨナリズムの典型。というのは、勝つ勝つといってみなばろ負けに負けているでしょう。あの戦争と同じこと。自分の国のことだけ考えて、よその国がどうなっているかということが全然日本人にはわかっていない。何がそういう風に考えさせるかという

ね、日本民族は世界で冠たる天皇制を頂いているという、そういうふうな思い上がり。思い上がりがナシヨナリズムの根底にある。だから、まさにこの前の戦争と、トリノのオリンピックは同じです。私ははつきり言って、一種のナシヨナリズムだと思う。これは日本のジャーナリズムが全部こういうことをしているわけ。だから私は日本の国がこういうナシヨナリズムにならないためには、天皇制をもういっぺん考えなくてはいけないと思っているわけ。厳然として精神的な天皇制がまだ残っているから、こういう変なナシヨナリズムが興って、自分で自分がわからなくなっているのだと思います。

墓地調査に参加し、一変した戦争観

私は戦争中に他の人が見ることができないような、見てはいけないような残酷な戦争の有様を見てきている。特に終戦になってから、私は連合軍の命令でタイメン鉄道という例の「戦場にかける橋」のタイ国からビルマへ通じる約四一五キロの沿線。その両側にある墓地の調査隊の通訳を命じられて、三週間の間調査して歩いた。墓地の数は大小取り混ぜて二一〇か所以上、それからチェックした遺体が一万三千以上。人間そういうことを三週間経験したらどうなると思う？僕みたいになつたんですよ。戦争に対する考えがガラッと変わってしまった。私自身も戦争のとき、身体が弱いから兵隊になれなかった。

第三乙といつてあんまりかんばしくない、当時としては恥ずかしい身体だった。しかしみんなが戦争に行く、だから男として恥ずかしいから、陸軍通訳を（下士官の待遇です）志願して、現地へ行ってお国のために働こうと思って、一生懸命頑張ったわけです。昭和一六年一〇月二〇日に陸軍通訳（職名）になって、帰ってきたのが昭和二十一年七月一〇日、計算してください五年ぐらいいですか。

その間一生懸命働いて、見たものといえれば戦争のおぞましき、大日本帝国陸軍というものいいかげんな実態を見たわけ。ようするに侵略戦争だったわけですよ、それをまともに見てきたから。そして最後に通訳として、人を見てはいけない、また見たことが無いようなものを、僕は見させられたわけ。今ではタイメン鉄道の後始末を、これも運命だと思つて、しなくてはいけないと思つているんです。

青山学院で英語を習ったのも、陸軍通訳を志願して行ったのも、戦争中に見てはいけない残酷なものを見たのも、みんなタイメン鉄道の後始末をするような運命だったんだなと思つて、今でも一生懸命やつてます。

忘れられない タイ国からの恩恵

戦争中の通訳というのは相手が連合軍だから英語の通訳です。一番やるのは情報収集ね、敵がどのような情報を持っているかということ、



書類から見ると、いろいろなことを見たり聞いたりして情報収集するわけです。初めのうちはシンガポールにあった南方軍の総司令部というところにおつたんです。それから昭和八年の四月一日付け

で、タイ国の駐屯軍司令部の情報室へ行って、次に同年の九月一日付けをもって、南方軍第二憲兵隊。私の行った場所はカンチャナブリ憲兵分隊で、その憲兵隊の通訳です。連合軍の捕虜たちの情報収集です。情報収集のために憲兵が拷問をかけるときに通訳をしました。拷問については思い出したくないですね。とにかく人間のはいけないうことを平気でやるわけです。口のところにタオルをかけて上から水を注ぐんです。つまり溺れさせるわけよ。タオルに水をかけると表面張力で締まって息ができなくなる。仕方なく口をあけると口の中に水が入って、見る間に胃が膨れてくる。残酷なものですよ、溺れるわけだから。目の前でそれをやられて、そういう時に通訳を私はやらされたから、とにかく戦争が嫌になった。日本の軍隊というのは天皇陛下が仁慈遍く立派な軍隊だということで、志願してまで行ったんだけど、日本の軍隊のす

ることを見たら、人権無視のことばかりやる。

今自分がしている活動は、自分のしたことに対する反省をしているわけですね、贖罪ですよ。タイ国に対してやっていることは、日本軍が在留邦人合わせて一三万人タイ国から帰ってくるときに、日本軍はタイを占領しに行ったわけなのに、それなのにタイの政府は「負けて帰る日本の兵隊が可愛そうだ」と、「特に日本は今めちゃくちゃになっている。船が日本に着いたときに、自分の家に帰るのに腹が減るだろう」と、飯盒一杯のお米と、中盒に（あの当時日本ではダイヤモンドぐらいの価値がある）ザラメ（砂糖です）を入れてくれた。一三万人の日本人の一人一人にですよ。そのことを知っているのは今、私だけなんです。もう一人海軍の中佐の方が知っておられたけど、その方は亡くなられて、今は私一人だけが知っているんです。そういうことをタイ国の人がしてくれているわけです。だから私は、慰霊が一本の柱、もう一つはタイ国のために何かしらできないかという、この二本の柱でこの六〇年間やってきました。

アジア侵略を直視することから

今の日本人は義理人情をわきまえない。日本人は勘違いをしている。日本の兵隊は国を守るために死んだと靖国神社は言っているが、本当にそうなんでしょうか。日本の兵隊が海外に行行ったのは何のためだったのか。侵略しに行

ったんでしょ。そのために死んだんでしょ。

それがどうして靖国神社ではお国のためということになっているの？私はおかしいと思う。言語感覚がぼけているんじゃないか。終わりごろ激しい戦争をやったから仕方なく、結果として日本の国を守ったということになるけれど、本当はそうじゃないでしょう。目的はアジアを侵略しに行つて、その結果として負けて爆撃などがあつたから守つたということになるけれど、この理論はちよつとおかしいと思う。日本では戦争のことを、また歴史というものを考えない国だから、自分の都合のいいように思う。サンフランシスコ条約で世界中が日本の無条件降伏を認めたのに、それが間違っているなどと言っているでしょう。歴史を変えてはいけません。負けたのは負けたんだからそれでいいじゃないの。どこの国だって戦争をすれば勝つたり負けたりするよ。将棋や碁と同じよ。きっちり認めてね。一步でもよりよい国家を作つて、一步でも外国と仲良くして、人類のために尽くすのが我々の目的でしょう。それができないんだ、日本人は。

なぜそういう結果になるかというと、私の考えでは天皇制が厳然として残っているからですよ。自分の国が百何十代続いた天皇制の、世界で一番優れた国だという変なイメージ。よその国だって優れますよ、優れているから日本は負けているでしょ。そういうふうに日本の国だ

けが良くて、よその国は軽蔑すべきという考え方をやめないと、前の戦争と同じく孤立してしまえますよ。アジアから毛嫌いされてるでしょ。アメリカでさえも、小泉さんの靖国神社参拝は止したほうがいいと言ってますね。あの人にはただ一日も早く辞めてもらって、よその国と仲良くなれるような首相を選ばなければいけないと思ってます。そのために少しでもお役に立てばと思って話しているんです。

日本軍の遺骨は放置されたまま

ビルマでのインパール作戦に三〇万もの日本軍を使ったんですよ。その半分はビルマの平原に、遺骨がそのままになっている。戦争に負けて一二年経ったときに厚生省が遺骨をみんなに配っている。中には砂が入っていた。一年後にビルマから誰がどうやって砂を持つてくるの。今頃になって遺骨を捜せという、厚生省としては二重になるわけよ。だからもうできないわけですよ。私も国境にあちこちお寺やお堂をたててきました。その前で厚生省の役人が手をあせている。私に言わせれば、日本の国を悪くしているのは天皇制と、その天皇制を頂く日本の官僚制度。これを直さない限り日本は絶対に民主化されない。私はそう思っている。

九条を変えたいというグループは、もう一回アメリカに従って戦争をしたいんですよ。今度はそうは簡単にいかないよ。

軍隊は何をしたか

私が中学生のころ、あの当時は、戦争に行く兵隊も送りに行ったけれど、帰ってくる兵隊も迎えに行ったもんです。だけど私たちが戦争から帰った時は、負けてたから誰も迎えてくれる者はいなかった。浦賀から汽車でこっちへ帰ってくる時、東海道の静岡の辺りで田の草を取っているおばあさんが帰還列車に向かって、一人だけ両手をあげてバンザイをしてくれました。列車に乗っていた兵隊はそれを見てみんな泣きました。昔はみんな国民から迎えられたもんですよ。

中国の戦争から帰った兵隊が、「ちよつとおいで」と僕らを呼んで「戦争というものはこういうもんだ」ということを詳しく教えてくれるわけです。「日本の兵隊さんは戦争に行くのに弁当持っていないんだ。食料は現地徴発をして、中国の田舎へ行つて、食べるものを色々と徴発して、その次は女の人、おばあさんから子どもまで手当たりしだい。明日が無い兵隊には仕方がないやね。強姦するだけならまだいいんだ、憲兵がいるからそのままにしていたらどこの部隊がしたかかすぐわかる。だから強姦したらその後で皆殺している。」

南京では夜、兵隊が飯盒飯を炊いたら、飯が黄色くなっている。あくる朝そのあたりの小川に、中国人の死体がいっぱいあって。川の色が真っ赤になっている。」そのようなことを聞かされて

ている。それが今、中国が日本人のやったことを言っているのと同じです。だから虐殺はあったんですよ。それを三〇万なんか多すぎる」という。数の問題じゃないでしょう。たった一人でもそういうことをしたら人権に関わる問題でしょう。絶対に悪いことですよ。そういうことを一つも反省しない日本人。

なぜ反省しないかというと「自分たちは天皇陛下のために戦ったんだ」という背景があるから、それで自分で納得しているわけよ。だけど天皇の命令であろうがなんであるうが、人を殺すということはよくないですよ。そういう反省が全然無い。というのは、そのことを歴史で一つも教えないから。現代史が始まっているのはヒロシマの原爆から始まっているでしょう。負けたということは知ってるけれど、勝つてるときに何をしたかということは全然知らない。

戦争に負けたあくる年に憲法ができたのは、それだけ戦争に対して日本人がよくないということがわかっていたからでしょう。それがだんだん逆行してきて天皇制に戻ってきている。憲法九条があつて、この六〇年間は平和だったわけでしょう。だったらなおさらでしょう。ジャーナリズムはもっと言論の自由を尊ぶべきです。もっと批判して国民に真実を伝えるべきです。

捕虜に使わなかった連合軍医薬品

私は昭和一六年一二月に二二歳で志願して、

昭和二年の七月に帰ってきたから、丸五年です。最後の一〇ヶ月というのは抑留されていた。名前は日本軍タイ国終戦処理司令部で、終戦の業務をしていた。他の兵隊は皆遊んでいたけど、私は通訳だから忙しかった。連合軍の通訳としてタイメン鉄道の墓所を調査した。戦争中、兵隊は各パートパートに分かれて仕事をしますが、私は戦後タイメン鉄道全線にわたってかかわっているから、私しか知らないことになる。そのことを今は誰もしゃべらないから、私がしゃべっているわけです。

犠牲者はイギリス本国軍、マライ義勇軍、オランダ軍、オーストラリア軍、カナダ軍、英連邦国全部です。それにオランダ軍です。私が調べた遺骨が一万三千人以上です。他にも鉄道建設が終わって、捕虜を日本へ連れてくる途中でアメリカの潜水艦に攻撃されて船が沈んでる。だから私はタイメン鉄道で二万人は死んでいると思う。六万八千人いた捕虜の中で、死んでないにしても、色々な伝染病にかかっている、ペストまであったからね。日本の兵隊は病気になる病に後送されるでしょう。ところが捕虜たちは病院になってもそのまま放置される。しかも連合軍の方からは、たくさん医療品を送ってきてくれた。それを日本軍が使っていた。終戦になったときに、倉庫の中にそういう薬が腐るほどあった。医療品は日本軍の捕虜になっっている人に対して国際赤十字が送ってきた

んです。日本軍を通じて送らなければ仕方がないでしょう。それを日本軍が全部盗っている。日本軍が使って捕虜には使わなかった。そういうことを見てきた。タイメン鉄道で働いたある作家は、日本軍の犠牲者は八〇数人にすぎないと私に教えている。

民主主義に反する天皇制

なぜ戦争をして、なぜ負けたかという根本的なことを考えたら、天皇制の罪が残ってくる。ドイツは何もかもヒットラーの責任にして、ナチスが悪かった、ヒットラーが悪かったということにしてしまつて、新しい憲法を作つた。しかし日本は天皇制が残つたからそうはならなかった。現在でも「天皇は神聖にして侵すべからず」というのが頭に残っている。

戦争が起こつてくるときにはその流れに巻き込まれる。昔もそうだった。勢いですからね。だから日本のジャーナリズムがもう少し考えなくてはいけない、民主主義と天皇制は絶対相反するものではない。

日本は戦争で亡くなった兵隊の遺骨を収集に行つてない。それが天皇制の軍隊だからでしょう。タイの国境の人達は困っているんです。メーホンソンという県で、親日家の警察官が調べてくれたんですが、七千人の日本の兵隊の遺骨があるといっている。日本の兵隊の死んだ場所が、タイ人の田んぼや畑や山林の中で死んでい

る。中には家の軒下で死んでいるんです。死後一週間はリンが燃える、日本兵のユレイだと住民は恐がって近づかない。だから、厚生省にタイの人に聞けば分かるからと言つただけで、「そうすると金もうけのため犬や猫の骨を持つてくるから」と言う。それが日本の役人の考え方。厚生省も行つてはいるが十数人の遺骨を持つて帰つただけで、私が建てたお堂の前で手を合わせている。その写真を見て、日本の遺族の人もそれで安心しているでしょう。靖国神社にも祭られているから。

若い人達に天皇制と民主主義についてもつと考えてもらいたい。アメリカの「人民の、人民による、人民のための政治」、これが民主主義の根本でしょ。だからアメリカは、今のブッシュの政治があのような状態でも、振り子のようにまた元へ戻りますよ。日本はインテリジェンスがないから、ブレたら元へ戻らない。それが残念です。

タイメン鉄道を世界遺産に！

今回、タイへ行く目的が三つあります。一つは、私がタイの国境にあるホームレスの子どもたち（今から一〇年ほど前に、ビルマ族にやられたモン族の少数民族である村の子どもたちで、家が無い五〇人ほどの子どもがいる）の学校を、お寺に頼んで作つてもらつた。ところが寝るところがないので、今度寄宿舎を作つたんですが、

そのお金を、兵庫県にある「円応教」という宗教団体の深田さんという人が出してくださって、その寄宿舎の落成式があるんです。一つは、私の銅像が立つんです。私がタイ国から留学生を招いてお世話をした。その留学生たちが、私の為に集まってタイメン鉄道の博物館の前に銅像を立ててくれる。その除幕式があります。もう一つは、そのタイメン鉄道を反戦のシンボルにするため、ユネスコへ世界遺産の登録を申請をするようタイの観光庁に陳情書を持っていく。タイメン鉄道は一三〇キロ残っていて、国鉄ナムトク線という名前でも使っています。

今回は観光庁のお偉方が会ってくれるそうです。家内が行かれないので、橋本竜太郎さんの奥さんが一緒に行くことになりました、奥さんが一人も参ったことがないので、ついでに訪ねて花束を捧げてもらいます。テレビ局が二局付いてくるそうです。ドキュメンタリーを作るそうですので見てください。

(聞き取り：二〇〇六年一月一日、翌日永瀬さんはタイへ出発された。聞き手・記録：真田紀子)

岡山・十五年戦争資料センター設立趣旨

アジアの人々に多大な被害を与え日本国民にも未曾有の「犠牲」を強いたアジア太平洋戦争、その終結から50余年をへた現在も戦争の評価をめぐる激しい意見の対立があるのは何としたことでしょうか。

戦後の歴史研究は日本帝国主義による侵略戦争であったことを論証し、昨今の市民運動もアジアの人々に対する非人道的な加害の事実を検証しています。その一方で日本による侵略や加害の事実をあまりに戦争美化を企てる勢力が大きくなっています。

1996年12月に岡山県議会は中学校教科書から「従軍慰安婦」・「三光作戦」記述削除を求める陳情を趣旨採択しましたが、この事件は私たちに二つの教訓を示しました。一つは歴史の真実は明るみに出され継承されないと風化するだけでなく歪曲・偽造される危険性のあること、二つ目は日本軍一般の加害行為に帰すのではなく、父や叔父や祖父の犯した行為というように、地域レベル・家庭レベルの、私たち一人ひとりの問題として考えていくことの大切さです。

かつて岡山の人々はさまざまな形で戦争に関与しました。国家の意志を先取りまたは同調し一般住民への橋渡し役を担った官吏・教育者・財界人などの地域支配層や、在郷軍人会や産業報国会や国防・愛国婦人会などファシズム組織で旗振り役を任じた人たちがいました。反戦運動に挺じた人たちもいましたが、大部分の人々はこれらの組織に組み込まれて「銃後の守り」手として軍需産業へ駆り出されました。また中国や朝鮮の人たちを強制連行し使役しました。兵士や満蒙開拓団をはじめとする多様な人々がアジア各地で日本による占領地・植民地支配を支えました。

現在これらの体験者や戦跡は消滅の危機に直面しています。しかし岡山県の戦争体験はこれまでどれほど発掘され、客観化され、歴史の逆流を阻止しうる「地域の叡智」にまで高められ、そして継承されたでしょうか。現在は、そのことを為しうる最後の機会かもしれません。

本会は、岡山県における戦争を支えた人々の体験の記録・戦争遺跡の調査・資料収集などをおして、侵略戦争の構造を地域レベルで明らかにします。そこから戦争の芽をいち早く摘みとり平和を築くための「地域の叡智」を学び、21世紀へ継承・共有していきたいと考えています。

1998年11月